

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	かわちながの森林プラン推進協議会
2 開催日時	平成30年7月9日(月) 午後2時から
3 開催場所	河内長野市役所 8階 801(西)会議室
4 会議の概要	<ul style="list-style-type: none">・平成29年度かわちながの森林プラン実行プランの実績報告・平成30年度かわちながの森林プラン実行プランについて・意見交換
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 環境経済部 農林課 林政・土地改良係 (内線426)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

平成30年度
第1回かわちながの森林プラン推進協議会

平成30年7月9日
801西会議室

会 議 次 第

1. 開 会
2. 議 事
 案件1 平成29年度かわちながの森林プラン実行プランの実績報告
 案件2 平成30年度かわちながの森林プラン実行プランについて
3. 意見交換
4. 閉 会

平成30年度 第1回
かわちながの森林プラン推進協議会 名簿

	区分	所属等	委員名	備考
1	森林所有者	農林業従事 (大阪府指導林家)	おくの ひさかず 奥野 壽一	会長
2	森林所有者	河内長野市地区推進協議会	いのもと てつお 井元 哲夫	
3	林業従事者	大阪府森林組合南河内支店 理事支店長	ほりきり しゅうへい 堀切 修平	
4	林業従事者	株式会社 南河内林業 取締役	なかたに たかのり 仲谷 貴紀	
5	森林に 関連する団体	NPO法人森林ボランティア トモロス 理事長	ほり やすあき 堀 泰明	副会長
6	森林に 関連する団体	林業女子会@大阪 代表	くらはし ようこ 倉橋 陽子	
7	関係行政機関	大阪府南河内農と緑の総合事務所 森林課長	しおの まさのり 塩野 雅典	

第1回かわちながの森林プラン推進協議会 会議記録

会議名称 第1回かわちながの森林プラン推進協議会
開催日時 平成30年7月9日(月)午後2時から午後3時50分まで
開催場所 河内長野市役所 8階 801(西)会議室
出席者 委員(別紙名簿のとおり)
事務局 太口部長、吉永課長、池西課長補佐、松見副主査、住田
会議内容 別紙次第のとおり。詳細は以下のとおり。

○詳細

1. 開会

委員7名中、7名が出席され、設置条例第6条第2項「委員の半数以上が出席」に基づき、会議を開会した。

太口部長より開会のあいさつ。

2. 議事

(案件1 平成29年度のかわちながの森林プラン実行プランの実績報告)

昨年度第2回かわちながの森林プラン推進協議会で完了分のみ実績報告を行っていたので、昨年度末に事業完了したものの実績と、それをもとに策定した目標値について実行プランの実績資料を用いて説明し承認いただいた。質疑については以下のとおり。

奥野会長：ナラ枯れの被害については、葛城山の方などひどいところがあるようだが、市内の状況はどうか。

松見：今年度に入ってから市に報告はあがっていない。今後も適宜パトロールするとともに、情報提供があれば対応する。

堀切委員：森林経営計画の作成促進に係る目標値について。森林組合として市の目標値を元に作成を進めるわけではないが、森林経営計画については大阪府の森林環境税の補助事業の要件にもなっており、多めに作成しているところである。計画作成後は維持管理も必要になるため、どこまでもできるわけではないが、ハイペースで進めているところなので目標値くらいは達成できると思う。

仲谷委員：森林経営計画が増えれば施業を実施するところも増える。府内の事業者は少ない上に年配の方は引退する人が増えている。人材育成が必要で、新たな人材を増やしていければと思う。

堀切委員：どれくらいの施業を行うかは補助事業費による部分もあるので、一概に事業体で目途を立てられない。

倉橋委員：都市に近いところで林業が衰退しているところは他にもあると思うが、事例などの調査はできているのか。

松見：フォレスター制度など事業をおこなっているところはあると把握している。森林組合や南河内林業でもインターンは取られていると聞いている。

仲谷委員：フォレストワーカーの研修を受けて新規に人がやっとな雇用できるような感じなので、簡単には繋がらないと思う。そういった補助事業もあればいいと思う。

倉橋委員：就職となると人生を左右する選択なのでハードルは高い。仕事としては難しいが林業に関わるようなことをしたい人も結構いて、そういった人の道が用意されていれば関わる人は増えると思う。

奥野会長：事業体はどういう風にすれば人が増やせると思うか。林業家としては、今のように入材が安すぎる状態では難しいと思う。事業体はどう考えているのか。補助金で一定成り立っていると思うが。

堀切委員：補助事業ベースでやっているため、夏以降が仕事のメインになる。細々と林業を続けたいという人もいるが、仕事のある時とない時の差が大きいので難しい。本来は造林や下刈を夏場に行くが、最近は減ってしまった。まちなかの伐採の仕事や、買取林産で択伐などをして食いつないでいる状況。

仲谷委員：4～5月は例年仕事がなく、和歌山で仕事をさせてもらったりしている。ただ、大阪の会社なので、できればこちらでできればとは思っている。今従業員6人だが、なんとかやっけていっている。多い時は20人近くいたこともあったが、人が増えると事故やケガも増える。少数の方が動きやすい部分もある。今年2人若い子が増えて、熱心にやってくれているので、そういう人を増やして行きたい。就労目的ではなく、意欲のある人材がいれば受け入れたい。

堀副会長：話を聞くと仕事のムラを確かに感じた。ボランティアでもトモロスはお金を稼ぐことし始めて、レベルも上がってきている。林野庁の補助事業も始めたりしている。ボランティア団体として収益活動もできるので、事業体として人が足りないタイミングがあるのであれば、補助的に助けることもできる。森林ボランティア団体なので林業に関係ない活動で収益をあげるより、林業に関するところで収益をあげるほうが良いと感じている。

奥野会長：4～6月は搬出間伐が減るが、製材所のことを考えて自分は搬出をするように心がけたりしている。

堀切委員：4～6月は補助事業がないので、その間つらい部分もある。

倉橋委員：農業も忙しい時期とそうでない時期あると思うが、林業とうまくリンクさせられないのか。

仲谷委員：昔はそれで成り立っていて、理想ではある。

池西補佐：大規模農家があれば人を雇ったりもできると思うが、市内にはそういう農家は少ないので難しい。

太口部長：人件費を払うことができるほどの農家はなかなかいない。

塩野委員：共販所の取扱量がH28年から一気に増えているが市としては理由を把握しているか。

松見：共販所と事業体に確認を行い、森林経営計画を立てた森林が増えた結果であると確認している。それにしても大きく変わっているので驚いているが、二年続いているので一過性のもではなく、森林経営計画が軌道に乗ってきた結果だと思っている。

塩野委員：今後、経営に見合う山とそうでない山の兼ね合いを考える時期になってくると思う。国の森林環境税への対応も考えると林業事業体のマンパワーも鑑みて計画など立てていく必要がある。そういう意味では市町村としても施業計画の変更などについては臨機応変に対応してほしい。

案件1について質疑終了

(案件2 平成30年度のかわちながの森林プラン実行プランについて)

事務局担当より、平成30年度かわちながの森林プラン年間スケジュールを用いて説明し、計画について承認いただいた。質疑応答については以下のとおり。

倉橋委員：森林E S Dが話題になってきて、木根館としても富田林など市外にもP Rを始めている。その中で、地域という認識が変わってきていて、市内だけでなく、広域になってきている。このあたりで行くと南河内としてとらえるような感じ。そういう意味では農林課としても周辺市町村との連携も行っていく必要があると思う。

倉橋委員：最近、木根館のアンケートや問い合わせでも増えているのが、おおさか河内材の認知度が上がっているとともに、おおさか河内材のブランド管理しているのはどこかという部分が不明確な気がする。ロゴや焼印の使用のルールなどどうなっているのか自分も説明できないし、これを機に皆さんの認識を伺いたい。

仲谷委員：焼印の存在は知らなかったが、おおさか河内材販売促進協議会ができたので、そこを通してという認識でいる。

松見：ロゴについては市が作ったもので、焼印についても市の所有物である。市としては販売主体であるおおさか河内材販売促進協議会があるので、ロゴを商標登録することなど躊躇している。販売促進協議会と調整が必要だと考えている。

倉橋委員：ブランド管理するところと、販売主体は別で問題はないので、はっきり整理した方が良いと思う。

松見：今後、販売協議会との調整は必要であるが、みなさんの認識として、ブランド管理は市という認識で問題ないのであれば、関係者と協議進めて、商標登録など進めるようにする。

案件2について質疑終了

3. 意見交換

堀切委員：病害虫が見つかった場合の申請者や手続きの流れはどうなっているのか。

松見：パトロールで見つければ情報共有し、通報があれば補助金の説明等を行う。現在のところ通報は受けても所有者がわからなかったり、補助金の要望までではない場合が多い。

堀切委員：北摂の方では市費で府補助を利用して対応していると思うがどうか。また府の森林環境税での対応はできないか。

塩野委員：北摂の場合は大きい被害が出ていたため、確かに市費で対応されている。また、森林環境税については、道路沿いで危険な場合などは対応検討できるかも知れないが、奥地の場合は難しい。

松見：被害の規模が大きい場合や、個人で対応しきれない場合などであれば市費での対応も検討が必要かと思うが、現状では補助金の要望もなく、事業費が大きい個人で対応できないという話も出ていない。今後そういった要望があれば対応はする。

堀切委員：市では木材利用指針を立てられているが、状況はどうか。公共建築にもっと木材を利用してもらえるとありがたいが。

松見：木材利用指針に基づき庁内の調整も行っている。庁内の木材利用状況の確認等も木材利用指針に関係する部署に行っている。しかし、現状では新築などの予定もなく、改修などにおいても予算の問題から費用重視になっている部分はある。机や椅子などの備品で木材は使われているようだが、国産材で地元材ではない様。

倉橋委員：公共事業の仕様書におおさか河内材を使うように明記したりはできるのか。

堀切委員：府の事業などでは府内産材を使うような明記はあることもある。

堀野委員：確かに明記あることもあるが、府内産材のため、おおさか河内材に限らない。

松見：実際に仕様書に明記するような場合は供給体制が整っている必要がある。その上で要望があれば対応も検討はできると思う。

太口部長：木材利用指針を立てて検討はしっかりしているが、市の財政状況は実際かなり厳しい。地元材の利用推進は必要であるのは確かだが、改修であっても地元材を使うことで費用が上がるのであれば使用は難しい状態である。

松見：公共建築物での使用も検討は続けるが、おおさか河内材に関する民間からの問合せは今年度に入ってから何件か来ている。公平性を考えおおさか河内材販売促進協議会事務局に問い合わせさせていただくよう回答しているが、その後の状況はどうか。

堀切委員：確かに問い合わせは来ている。東京などからも問い合わせ来ることもある。どちらかというとう木工の話が多い。具体的に進んでいるものは今のところない。

堀副会長：おおさか河内材はなぜ他と比べて高いのか。

奥野会長：出荷するまでにかけている年月が違うので高くなる部分はある。九州の木材の40年生と比べると太さが全然違う。その分良い木材である。

堀副会長：高品質で価格が高いのは問題ないと思う。同品質で他と比べて高いのか、品質がいいから高いのか、分析などはしているのか。

堀切委員：製材所の規模が違う部分での価格の差もある。大規模製材所で一気に製材するのと、ウッドベースのようなシングルソーで対応するようなやり方では全然コストが変わってくる。

仲谷委員：実際原木段階では、他と価格の差はそんなになんないと思う。

堀切委員：量は少ないが品質の良いものを出していくという感じで考えたい。

松見：CLTの話題が良く上がるが、おおさか河内材での可能性はどうか。

堀切委員：CLTなどの集成材は安い木を組み合わせて作っているので、おおさか河内材では難しい。

松見：良い材を製材する際に発生する端材部分をCLTに使うなどにはできないのか。公共建築で木材利用をしているところもあるが、民間での木材利用は実際増えている。民間では公共建築以上に価格ありきのため、そこで使われているということは、木造は決して高くなく、コストメリットがあるということ。おおさか河内材の良い木を使うという考えとは外れるのかもしれないが、そういった話もかなり聞いている。資料などもあるので、今後おおさか河内材販売促進協議会にも展開するようにする。

奥野委員：九州の方は節があるかどうかは関係なく、曲りがあるかないかだけ。節なしの良い材を作ろうとしているところと考え方が違う。CLTは節なしの木から出る端材でつくるものでもない。木の育て方から違う。おおさか河内材は良い木が必要なところを狙って勝負していかないといけない。

意見交換 終了

4. 閉会

議事がすべて終了し、次回は平成31年2月上旬を目途に開催予定として閉会した。

以上